

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072400480		
法人名	社会福祉法人 麦の家		
事業所名	麦の家・ぶどうの木()()		
所在地	長野県上伊那郡中川村大草4559番地		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072400480&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

村社会の風土・生活様式についてもっと知り、それを利用者の日常生活介護の仕方にも導入するのみならず村の住民とのネットワークをさらに深めてPRに取り組みむと同時に、麦の家を利用している高齢者の姿を村の人々にアピールしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで、地域の医療関係者の協力を得てターミナルケアに必要な応じて取り組んできたが、昨年ホーム型ホスピス棟を建築し、家族や本人の希望を受け入れ終末期を迎えても安心してホームで過ごすことができるようにさらに体制ができてきた。また、開設当初から一貫して、村との関係作りや住民との協力体制を築いていくことに力を注いでいる。地域住民だけでなく、近隣の福祉従事者を対象にした研修会を開くなど、ホームの力を活かした地域貢献も継続されている。職員が増えたなか、介護の質が低下しないように配慮して、みんなで一人ひとりの入居者に寄り添った介護をめざしている様子が伺える。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(ぶどうの木())

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(ぶどうの木())			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常業務や月1回の職員会合の場において、職員相互の間にて確かめ合っている。	理念にあげていることをわかりやすく、申し送りの時など日常生活で気がついたことを具体的に話している。また、実践報告の場では、職員の入居者に対する関わり方について話し“尊厳性”について確認しあっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域対象向け広報誌の発行や、進学推進会で地域との交流を深める努力をしている。	町内会に加入しており、地域の行事(寄席の会、福祉交流会、どんど焼き等)にも参加をしている。地域や中学生のボランティアが定期的に来訪したり、保育園や小学生の子どもたちが来てくれる。また、地域向けの広報誌“麦の家”を発行している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンへの参加や地域対象講習会への参加から、積極的に企画・実行している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同会議で取り上げた議題を職員会合で取り上げ、活かしている。	地区の総代、家族会代表、村の福祉課長、包括支援センター職員等の参加で状況報告や運営など話し合っている。出された意見をもとに、環境整備(桜の木の虫取り、雪かきの体制作りなど)、防災等具体的に取り組みサービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社協活動に積極的に参加し、月1回の連絡会にイニシアティブに働きかけている。	運営推進会議に村の福祉課長が参加し、入居者の募集について相談している。また、近隣の事業所に声をかけ、事業所連絡会を作り進めていけるように協力の依頼をしている。	

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当方では問題以前の事物としている。	身体拘束についてホーム長、リーダーで確認し、スタッフメンバーに伝え、外からの鍵をどうするかなど、家族の意見も聞き個々に検討している。	さらに、個室の外からの鍵のこと、屋根裏部屋から、居室が見えることについての意味など身体拘束について継続して話されることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当方では問題以前の事物としている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会の議題として、また積極的に社会的資源として社会的諸サービス利用法を伝えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテーク過程を大事にして、利用申請者の自己決定を何よりも尊重している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用申請の折に、契約の一項目として、当麦の家では不服申し立て事項を職員会で取り上げるシステムを導入している事を説明している。	リーダーや担当者が、面会時など意見や苦情、要望など聞くように心掛けている。また、運営推進会議にも家族会代表が参加し、費用負担についての要望もあり、オムツ代の節約に取り組んだり、行政への働きかけについても検討中である。	今後さらに、お便り発行時や家族会の際に、要望等出してもらえよう、意識的に働きかけ、より“声”をあげやすい体制づくりを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会合(月1回)に理事長より職員議会を設ける他に、ホーム長による全職員の声を聞く機会(スーパービジョン)を設けている。	スタッフの状況や様子によって回数は違っているが、月1回はホーム長が話を聞くようにしている。また、毎月職員会を開き、備品の希望、家族との関係づくりなど出された意見を取り上げ改善するようにしている。	

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日勤表作成を行うホーム長より毎月職員の意見・声を聞く機会を設けており、その後理事長と協議により調整改善を進めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会及び、週1回の常勤者連絡会で個別的ケアについて検討会をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回近隣施設職員らとのソーシャルワーク研修会を催し、交流を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン担当者を中心に、本人の意向を受け止める努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン担当者を中心に家族とのコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	積極的に社会的サービス利用の方法について家族会等で研究し、支援活動を進めている。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が生活の中心としているように、日常生活の過ごし方に工夫が必要と感じる。本人・入居者同士、入居者と職員の相互関係を深める努力をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションはこちらからの話を中心となってしまう事がある。家族が職員に対して率直に言えるような関係には至っていない。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の訪問を積極的に受け入れている。またご本人の大事な場所や思い出の場所にもご家族に協力していただき、出かけている。	入居時に、週1回の面会を条件にし、家族関係が切れないうようお願いしている。また、家族等の協力を得て、入居者の要望を聞き、墓参りや床屋、電話をかける、家に帰るなど支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの思い出を受け止めながらも、一人ひとりが孤立しないよう職員が間に入りながら、利用者同士の関係を支えるよう努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の看取り後も、かつての利用家族らへの麦の家PR紙の配布により交流を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握する努力をしている。困難な場合はご家族の意向を中心に、本人の状況や身体状態・生活暦を踏まえ検討している。	日々のかかわりのなかで、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。また、職員会等においても、情報の交換をして、職員みんなが把握するようにしている。	その人らしい生活をさらに支援するために、アセスメント用紙等記録の整備をされ課題をより明確にし、ケアプランに活かしていくことを期待したい。

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりに対する生活歴や暮らし方の把握を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合い、また看護職員や主治医のアドバイスを取り入れた介護計画を作成している。 また必要に応じてケアミーティングを開き、ケアプラン担当の入居者について相談する機会を作っている。	家族の意見をきいたり、職員間で話し合いケアプランを作成している。定期的な見直しだけでなく、必要に応じてミーティングを開いて検討している。モニタリングも定期的に行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎週ケア目標を立て、実践・結果・気づいたことを個別記録に入力している。 職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとして支援可能な、入居者にとって必要な支援を行っている。 ご家族の状況を受容しながら、入居者本人と家族のつながりをシステムとして意識し、家族と共に本人を支えるケアを目指している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に設けられた様々な設備・機会を資源化する為の勉強会を職員会合で行い、それを個別ケアに活かすプログラムを策定している。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を中心としながら、本人及び家族の希望を聞き、受診支援を行っている。また毎月1回、必要に応じてかかりつけ医の往診を受けられるよう協力体制をとっている。	いまは本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医の受診が受けれるようにしている。また、毎月1回の往診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や地域の診療所の看護師と相談出来、協働関係が出来ている。診療所の休日であっても、指示や往診が得られている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談を密に行い、できるだけ早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向について家族と話し合っている。本人・家族・医療機関・グループホームが話し合い、方針を共有出来るよう努めている。	昨年6月には、ぶどうの木（福祉型ホスピス）を開所しており、ホームで終末期を迎えられる体制作りをすすめてきた。家族と主治医との話し合い、それに従って、ホームと家族が話し合っ取り組んできた。職員の対応に対しての不安に対しても、体制ができています。	ホームとして、主治医や家族と話し合いを進めながら、終末期を支援してきた。さらに、家族や本人等と、意思確認書など文章化し、話し合いの経過もすぐわかるように記録されることを、期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法・避難訓練を年1回行い、事故防止と共に、緊急時の対応について知識を学んでいる。一人ひとりの行動の特徴を把握し、それぞれに合わせた事故防止に取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、村・地区・組合の協力で、利用者・職員全員参加で防災シュミレーションの機会を設けている。	最近では、昨年11月29日に消防署や消防団の方の立会のもとでの防災訓練を行った。区の防災訓練にも参加しており、災害時には地域の協力も得られるようになってきている。	

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行えるよう努めている。 しかし記録等の個人情報、他の利用者の目についてしまう事がある。	理念を具体化したなかに、“尊厳性”があり、日常生活の場面でどう捉えて支援していくのか意識するようにしている。具体的な場面で、誇りやプライバシーを損ねないように心掛けている。	居室におけるポータブルトイレでの排泄や洗濯干し、個人情報の保護など生活場面において、さらに対応の仕方等見直していくことで一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を率直に表したり、自己決定出来るように工夫しながら取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースによって、利用者の満たされるべきニーズの支援が困難な事があるが、利用者がその日一日をどう過ごしたいか、その人らしい暮らしとは何かを考え、支えられるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力も得ながら、利用者一人ひとりの好みやなじみの身だしなみを把握するよう努め、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕の2食は業者に調理を委託している。 利用者の好みは把握できており、また食卓を拭いたりといった準備・片付けは利用者の出来る範囲で職員と共に行い、食事と一緒にしている。	ホーム全体で、トロミ食や病人食の入居者が増え、職員だけでは対応できないので昼・夕は業者に委託をしている。準備や配膳・片付けなどは入居者ができることは職員と一緒にこなしている。食事は、職員も共に食べており、なごやかな雰囲気である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量を把握し、入居者の状態に応じた支援が出来るよう努めている。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のケアは就寝前に行い、毎食後のケアまでは至っていない。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて、本人の力を活かした排泄の支援に取り組んでいる。尿意や便意を直接伝えることのできない利用者に対しても、それに代わる合図を見逃さず、排泄の失敗を減らせるよう努めている。	ソワソワした様子などのサインを見逃さず、一人ひとりの排泄リズムをつかんで支援するようにしている。様子を見て声をかけては、トイレで排泄できるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態によって看護師と相談し、ご本人の負担のないよう排便コントロールが出来るよう努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回、入居者の希望や状態によって利用出来る。 「職員の勤務体制によっては入居者と相談し、希望にそった入浴を楽しむことのできる支援」までには至っていない。	お風呂は、9:30頃から用意をして、声をかけ希望を聞きながら入ってもらっている。午前中にはいる方、夜寝る前に入る方という。入浴チェック表をつけて、入浴を嫌がる方への配慮も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を把握し、休息が必要な方には休んでいただくよう取り組んでいる。夜間に不安感があり眠れない方がいた時等は、職員が添い寝をしたりお話をし、安心していただけるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が利用している薬の目的や副作用、用法・用量について理解し、症状の変化の確認に努めており、看護師やかかりつけ医と連携をとり支援している。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	鴨の餌切り・食器拭き等、利用者の負担にならないよう出来る範囲で役割を担っていただいている。 毎日のプログラムを考え、利用者が楽しんで日々を過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣地域への散歩や、中庭に出て移りゆく季節を肌で感じるなど、気分転換や五感の刺激になるような外出支援ができています。	今は、寒い時期なので散歩はしないが、暖かな日は敷地内に出たり、季節に応じて外出をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持・使うことのできる利用者は少ないが、希望や力に応じてお金を所持・使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が不安を訴えている時や、希望が合った際には、ご家族の協力を得ながら電話で話せるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節や日差しに配慮した空間作りを行っている。 季節感のある飾り付けを行い、楽しんでいただけるよう工夫している。	居間については、みんながゆったりと過ごせるように、工夫されている。春の花やお雛様が飾られており、季節が感じられるような配慮がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同棟 には畳のスペースがあり、カーテンや障子を使ってスペースを区切る事が出来、いつでも休むことが出来るようになっている。 共同棟 にはソファが置いてあり、ゆっくりと関わりを持てるスペースになっている。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使っていたものや馴染みのものをご家族に持ってきていただき、本人が居心地良く過ごせるような環境作りを行っている。	部屋の造りや広さが違っており、それぞれがベッド、炬燵、仏壇、使い慣れた家具を持ち込み落ち着いて生活できるように工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や居室から共同棟までの間に手すりを設置し、安全に過ごすことが出来る。 本人の「わかる」力に合わせた説明を行いながら、安全で本人の力に合わせた支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常業務や月1回の職員会合の場において、職員相互の間にて確かめ合っている。	理念にあげていることをわかりやすく、申し送りの時など日常生活で気がついたことを具体的に話している。また、実践報告の場では、職員の入居者に対する関わり方について話し“尊厳性”について確認しあっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域対象向け広報誌の発行や、進学推進会で地域との交流を深める努力をしている。	町内会に加入しており、地域の行事(寄席の会、福祉交流会、どんど焼き等)にも参加をしている。地域や中学生のボランティアが定期的に来訪したり、保育園や小学生の子どもたちが来てくれる。また、地域向けの広報誌“麦の家”を発行している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンへの参加や地域対象講習会への参加から、積極的に企画・実行している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同会議で取り上げた議題を職員会合で取り上げ、活かしている。	地区の総代、家族会代表、村の福祉課長、包括支援センター職員等の参加で状況報告や運営など話し合っている。出された意見をもとに、環境整備(桜の木の虫取り、雪かきの体制作りなど)、防災等具体的に取り組みサービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社協活動に積極的に参加し、月1回の連絡会にイニシアティブに働きかけている。	運営推進会議に村の福祉課長が参加し、入居者の募集について相談している。また、近隣の事業所に声をかけ、事業所連絡会を作り進めていけるように協力の依頼をしている。	

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当方では問題以前の事物としている。	身体拘束についてホーム長、リーダーで確認し、スタッフメンバーに伝え、外からの鍵をどうするかなど、家族の意見も聞き個々に検討している。	さらに、個室の外からの鍵のこと、中2階のケアワーカー室から、居室が見えることについての意味など身体拘束について継続して話されることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当方では問題以前の事物としている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会の議題として、また積極的に社会的資源として社会的諸サービス利用法を伝えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテーク過程を大事にして、利用申請者の自己決定を何よりも尊重している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用申請の折に、契約の一項目として、当麦の家では不服申し立て事項を職員会で取り上げるシステムを導入している事を説明している。	リーダーや担当者が、面会時など意見や苦情、要望など聞くように心掛けている。また、運営推進会議にも家族会代表が参加し、費用負担についての要望もあり、オムツ代の節約に取り組んだり、行政への働きかけについても検討中である。	今後さらに、お便り発行時や家族会の際に、要望等出してもらえるよう、意識的に働きかけ、より“声”をあげやすい体制づくりを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会合(月1回)に理事長より職員議会を設ける他に、ホーム長による全職員の声を聞く機会(スーパービジョン)を設けている。	スタッフの状況や様子によって回数は違っているが、月1回はホーム長が話を聞くようにしている。また、毎月職員会を開き、備品の希望、家族との関係づくりなど出された意見を取り上げ改善するようにしている。	

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日勤表作成を行うホーム長より毎月職員の意見・声を聞く機会を設けており、その後理事長と協議により調整改善を進めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会及び、週1回の常勤者連絡会で個別的ケアについて検討会をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回近隣施設職員らとのソーシャルワーク研修会を催し、交流を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン担当者を中心に、本人の意向を受け止める努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン担当者を中心に家族とのコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	積極的に社会的サービス利用の方法について家族会等で研究し、支援活動を進めている。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が生活の中心としているように、日常生活の過ごし方に工夫が必要と感じる。本人・入居者同士、入居者と職員の相互関係を深める努力をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションはこちらからの話を中心となってしまう事がある。家族が職員に対して率直に言えるような関係には至っていない。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の訪問を積極的に受け入れている。またご本人の大事な場所や思い出の場所にもご家族に協力していただき、出かけている。	入居時に、週1回の面会を条件にし、家族関係が切れないうちをお願いしている。また、家族等の協力を得て、入居者の要望を聞き、墓参りや床屋、電話をかける、家に帰るなど支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの思い出を受け止めながらも、一人ひとりが孤立しないよう職員が間に入りながら、利用者同士の関係を支えるよう努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の看取り後も、かつての利用家族らへの麦の家PR紙の配布により交流を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握する努力をしている。困難な場合はご家族の意向を中心に、本人の状況や身体状態・生活暦を踏まえ検討している。	日々のかかわりのなかで、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。また、職員会等においても、情報の交換をして、職員みんなが把握するようにしている。	その人らしい生活をさらに支援するために、アセスメント用紙等記録の整備をされ課題をより明確にし、ケアプランに活かしていくことを期待したい。

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりに対する生活歴や暮らし方の把握を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合い、また看護職員や主治医のアドバイスを取り入れた介護計画を作成している。 また必要に応じてケアミーティングを開き、ケアプラン担当の入居者について相談する機会を作っている。	家族の意見をきいたり、職員間で話し合いケアプランを作成している。定期的な見直しだけでなく、必要に応じてミーティングを開いて検討している。モニタリングも定期的に行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎週ケア目標を立て、実践・結果・気づいたことを個別記録に入力している。 職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとして支援可能な、入居者にとって必要な支援を行っている。 ご家族の状況を受容しながら、入居者本人と家族のつながりをシステムとして意識し、家族と共に本人を支えるケアを目指している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に設けられた様々な設備・機会を資源化する為の勉強会を職員会合で行い、それを個別ケアに活かすプログラムを策定している。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を中心としながら、本人及び家族の希望を聞き、受診支援を行っている。また毎月1回、必要に応じてかかりつけ医の往診を受けられるよう協力体制をとっている。	いまは本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医の受診が受けれるようにしている。また、毎月1回の往診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や地域の診療所の看護師と相談出来、協働関係が出来ている。診療所の休日であっても、指示や往診が得られている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談を密に行い、できるだけ早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向について家族と話し合っている。本人・家族・医療機関・グループホームが話し合い、方針を共有出来るよう努めている。	昨年6月には、ぶどうの木（福祉型ホスピス）を開所しており、ホームで終末期を迎えられる体制作りをすすめてきた。家族と主治医との話し合い、それに従って、ホームと家族が話し合っ取り組んできた。職員の対応に対しての不安に対しても、体制ができています。	ホームとして、主治医や家族と話し合いを進めながら、終末期を支援してきた。さらに、家族や本人等と、意思確認書など文章化し、話し合いの経過もすぐわかるように記録されることを、期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法・避難訓練を年1回行い、事故防止と共に、緊急時の対応について知識を学んでいる。一人ひとりの行動の特徴を把握し、それぞれに合わせた事故防止に取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、村・地区・組合の協力で、利用者・職員全員参加で防災シュミレーションの機会を設けている。	最近では、昨年11月29日に消防署や消防団の方の立会のもとでの防災訓練を行った。区の防災訓練にも参加しており、災害時には地域の協力も得られるようになってきている。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行えるよう努めている。しかし記録等の個人情報、他の利用者の目についてしまう事がある。	理念を具体化したなかに、“尊厳性”があり、日常生活の場面でどう捉えて支援していくのか意識するようにしている。具体的な場面で、誇りやプライバシーを損ねないように心掛けている。	居室におけるポータブルトイレでの排泄や洗濯干し、個人情報の保護など生活場面において、さらに対応の仕方等見直していくことで一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を率直に表したり、自己決定出来るように工夫しながら取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースによって、利用者の満たされるべきニーズの支援が困難な事があるが、利用者がその日一日をどう過ごしたいか、その人らしい暮らしとは何かを考え、支えられるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力も得ながら、利用者一人ひとりの好みやなじみの身だしなみを把握するよう努め、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕の2食は業者に調理を委託している。利用者の好みは把握できており、また食卓を拭いたりといった準備・片付けは利用者の出来る範囲で職員と共に行い、食事と一緒にしている。	ホーム全体で、トロミ食や病人食の入居者が増え、職員だけでは対応できないので昼・夕は業者に委託をしている。準備や配膳・片付けなどは入居者ができることは職員と一緒にこなしている。食事は、職員も共に食べており、なごやかな雰囲気である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量を把握し、入居者の状態に応じた支援が出来るよう努めている。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のケアは就寝前に行い、毎食後のケアまでは至っていない。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて、本人の力を活かした排泄の支援に取り組んでいる。尿意や便意を直接伝えることのできない利用者に対しても、それに代わる合図を見逃さず、排泄の失敗を減らせるよう努めている。	ソワソワした様子などのサインを見逃さず、一人ひとりの排泄リズムをつかんで支援するようにしている。様子を見て声をかけては、トイレで排泄できるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態によって看護師と相談し、ご本人の負担のないよう排便コントロールが出来るよう努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回、入居者の希望や状態によって利用出来る。 「職員の勤務体制によっては入居者と相談し、希望にそった入浴を楽しむことのできる支援」までには至っていない。	お風呂は、9:30頃から用意をして、声をかけ希望を聞きながら入ってもらっている。午前中にはいる方、夜寝る前に入る方という。入浴チェック表をつけて、入浴を嫌がる方への配慮も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を把握し、休息が必要な方には休んでいただくよう取り組んでいる。夜間に不安感があり眠れない方がいた時等は、職員が添い寝をしたりお話をし、安心していただけるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が利用している薬の目的や副作用、用法・用量について理解し、症状の変化の確認に努めており、看護師やかかりつけ医と連携をとり支援している。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	鴨の餌切り・食器拭き等、利用者の負担にならないよう出来る範囲で役割を担っていただいている。 毎日のプログラムを考え、利用者が楽しんで日々を過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣地域への散歩や、中庭に出て移りゆく季節を肌で感じるなど、気分転換や五感の刺激になるような外出支援ができています。	今は、寒い時期なので散歩はしないが、暖かな日は敷地内に出たり、季節に応じて外出をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持・使うことのできる利用者は少ないが、希望や力に応じてお金を所持・使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が不安を訴えている時や、希望が合った際には、ご家族の協力を得ながら電話で話せるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節や日差しに配慮した空間作りを行っている。 季節感のある飾り付けを行い、楽しんでいただけるよう工夫している。	居間については、みんながゆったりと過ごせるように、工夫されている。春の花やお雛様が飾られており、季節が感じられるような配慮がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同棟 には畳のスペースがあり、カーテンや障子を使ってスペースを区切る事が出来、いつでも休むことが出来るようになっている。 共同棟 にはソファが置いてあり、ゆっくりと関わりを持てるスペースになっている。		

外部評価結果(麦の家 ぶどうの木)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使っていたものや馴染みのものをご家族に持ってきていただき、本人が居心地良く過ごせるような環境作りを行っている。	部屋の造りや広さが違っており、それぞれがベッド、炬燵、仏壇、使い慣れた家具を持ち込み落ち着いて生活できるように工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や居室から共同棟までの間に手すりを設置し、安全に過ごすことができる。 本人の「わかる」力に合わせた説明を行いながら、安全で本人の力に合わせた支援をしている。		